



出発していい？



ジャンケンできめよう！



よいしょ！よいしょ！



うーん、うごかない！

CASE 14 2歳児



段ボール箱が電車に变身！

協力園
豊後大野市
ここに保育園

(幼児の実態)
7月になって、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている子どもたちの姿が増えてきています。したいことやしてほしいことを自分なりの言葉で伝えながら友達と同じ遊びをしたり、誘ったり、友達のことを見て、真似してみたりなど、周りの様子に興味や関心を持って遊んでいるようです。

段ボールの箱で作った坂の上からボールを転がしたり、段ボール箱の継ぎ目が折れて坂が崩れてきました。すると、A児は違った遊びをイメージし始めました。

坂を作っていた段ボール箱を「よいしょ、よいしょ」と部屋の中に入れて、「Bちゃん、乗れるよ」と友だちを誘って箱の中に入ります。B児が「電車みたいや」と言うので、A児も「電車に乗ってあげようよ」と二人のイメージが広がっています。

A児はさらに「お出かけするのにお弁当があるわ」とボールをおにぎりに見立て、段ボールの切れ端をクルツと丸めて、筒状のお弁当箱にしてボールを入れていきます。さらに、電車に乗っているB児に、「今、お弁当作っているから出発しないでよ」と伝えていきます。

出来上がったお弁当を持って電車に乗ったA児は、B児と顔を向き合わせて乗っていましたが、「出発せんといけん」と一端、箱電車から出ると、電車を引っ張って動かそうとします。B児が乗ったままだと重たくて、動きません。

A児は、「動かんわ！」と言いつつ力を込めて引っ張っています。A児たちの様子に気付いた保育者が側にやってきて、「パスののって」の歌詞を「電車にのって」に変えて歌い始めます。

♪でんしゃにのって ゆらられてる コーゴー
♪そろそろ みぎに まがります

♪3.2.1 ウアー

電車が動いている様子の歌が、実際に電車に乗っているような気持ちになったようで、二人を満足させています。その後もA児とB児は「かわって！」の言葉を交わしながら運転手役を交替しています。保育者の歌に合わせて身体を揺らしながら、繰り返し楽しんで二人の様子に気付いたC児が「わたしも運転手したい！」と寄ってきました。自分の番だったB児が「ジャンケンしよう」とC児にジャンケンで運転手役を決めることを伝えていきます。ジャンケンの結果は「B児がグーでC児がチョキ」でした。B児が「グーが勝った！」と大きな声で喜びます。

そんな二人のじゃんけんの様子を保育者は見守っていました。C児の「わたしの次は、わたしがするわ」と納得した声に、「ジャンケンのルール」を理解していることに気付きました。そして、二人に「ジャンケンで、決めたんやね。BちゃんもCちゃんもすこい！」と、二人の行動を認める言葉を掛けていきます。

A児たちの歌う『電車にのって』の歌声で、他の子どもたちも「のせて」のりたいたい、電車にのってに関心が広がってきました。

自然と運転手役の子どもは、出発する前に後ろを見て、みんなが乗っているか出発のタイミングを考えている様子が見られます。運転手の「出発！」の声でみんな一緒に歌い始め、自然と歌に合わせて身体を揺らしています。

健康な心と体 環境構成のポイント

- 子どもの姿を優しく見守り、寄り添う保育者が身近にすることで、安心して自分から遊びに向かい、今の自分が持っている心身の力を存分に発揮して、友達と一緒に楽しもうとする姿につながっている。
- 子どもの思いを感じ取り、遊びを支えている保育者の援助が子どものイメージした遊びを満足させ、周りの子どもも「楽しそう！」と興味や関心を持つきっかけになっている。
- いつでも自由に遊べる段ボール・カラーボールを身近に置いていることで、遊び慣れている物からイメージを膨らませ、遊びを考えるきっかけになっている。

事例から見られる10の育ち

言葉による伝え合い

「乗れるよ」「電車みたい」「電車に乗って出かけようよ」と言葉で交わしながら遊んでいる姿や、「お弁当を作っているから待ってね」と自分の気持ちを伝える姿、また、二人の遊びの中に他の友達を受け入れたりする場面でも、楽しく言葉のやりとりをしながら、遊びを続けていることがうかがえる。

こういった姿は、考えたことや経験したことなどを自分なりに言葉で表現して会話を楽しみ、相手の話に関心を持って聞こうとする姿に繋がってくるのが考えられる。

事例から見られる10の育ち

健康な心と体

電車に乗って出かけるのに弁当を持って行くことを思いつき、弁当を作る姿や友だちを誘って、電車ごっこを楽しんでいる姿から自分のやりたいことに向かって主体的意欲的に取り組んでいることがうかがえる。電車は動くものと認識していることから、動かしたいと思いつつ、引っ張ってみるが動かないことが分かった後、保育者の歌で動きをイメージし、全身で楽しんでいることが伝わってくる。

こういった姿は、こういった目的に向かって試行錯誤しながら自分たちで遊びをすすめていく姿に繋がることが考えられる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

言葉による
伝え合い

健康な心と体

道徳性・規範
意識の芽生え

豊かな感性と表現

保育園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。